

NPO法人社会還元センター グループわ 会報

# 情報ぎゃらりー

第38号

情報ギャラリー第38号

発行日 2007年 4月20日  
 編集 グループわ 広報部  
 発行者 郷 肥 三  
 発行元 NPO法人社会還元センター  
 グループわ  
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830  
 Eメール group\_wa@wa-net.jp  
 ホームページ http://www.wa-net.jp

## 新しい活動の場が誕生しました

須磨一の谷プラザ、いじめ電話相談、パソコン講習の会

郷理事長が本年度重点目標にしていたボランティア活動の拡大が早くも実を結び、3月から「いじめ電話相談」4月には「須磨一の谷プラザ」5月には「パソコン講習の会」がスタートします。グループわの活動実績が市当局に認められた結果で、この春、シルバーカレッジを卒業、新しく加入された11期生の皆さんこの活動に参加しませんか。

### 「須磨一の谷プラザ」

4月17日にオープン

理事 - 上田 市夫

「須磨一ノ谷プラザ」が4月17日、わの管理運営のもとにオープンしました。会員によるこのような施設の運営は、グループわの新しい事業分野になります。わは、かねてから会員のみなさま方とともにボランティア活動の場づくり・機会づくりの開拓に努めてきましたが、昨年5月末の「神戸市勤労会館海の家」の公用廃止のあと、神戸市による一定のリニューアル工事を受けて、名称も新たに「須磨一ノ谷プラザ」として、わが管理運営を担うことになったものです。

このことについては、昨年末にこの施設の管理運営団体の公募があり、わは条件付で応募しました。条件は、空調設備の新設、柱・鴨居など木部の洗浄、建具の更新、車椅子対応の出入り口の新設などです。1月に市の選定委員会が開かれ、応募3団体が運営方針等についてのプレゼンテーションで競い合った結果、



サクラ満開のもと、オープンした「須磨一の谷プラザ」

わが選定されました。神戸市はこの間、わが条件にしたりリニューアル工事についてもエアコンの設置など一部の改善を行いました。十分ではありません。今後とも利用者のニーズに応じた整備を要望していきたいと思えます。

この須磨一ノ谷プラザは、貸室がホールを含めて8室あります。会員が貸し館業務を通じて社会貢献をする場であり、新しいスタイルのボランティア活動の実験場であります。わの会員がこの須磨一ノ谷プラザを通じて地域に馴染み、利用者との交流・福祉の向上を図るための諸活動の一翼を担う舞台ともなります。

また名だたる須磨の歴史・文化・自然を基盤にした関連イベントを企画・実施することにより、わのホームページ等を通じて広く「須磨」の情報発信ができ、観光神戸の宣伝に一役果たせると思

います。さらにこの須磨一ノ谷プラザにわの分室的な役割を持たせ、各部会・各区会・各種同好会などの活動の場として利用して、会員相互間の交流を深めていただきたいと思います。

そして旧勤労会館海の家当時に利用されていた婦人会、自治会、各種サークルなどのグループの方々をリピーターとして迎え、すべての利用者に対して、常におもてなしの心で接することにより、新たなリピーターを上乗せすることができると思えます。

プラザへのアクセスもJRと山陽電鉄の須磨駅と山陽の(次頁に続く)

(単位:円)

階	室名	面積	定員	9-12時	13-17	18-21
1階	1号会議室	32㎡	20	500	700	700
	2号会議室	32㎡	20	500	700	700
	3号会議室	32㎡	20	500	700	700
2階	4号会議室	41㎡	30	600	800	800
	村雨	6畳	5	300	500	500
	松風	6畳	5	300	500	500
	源平	20畳	28	600	1,000	1,000
	ホール	108㎡	95	1,500	2,000	2,000

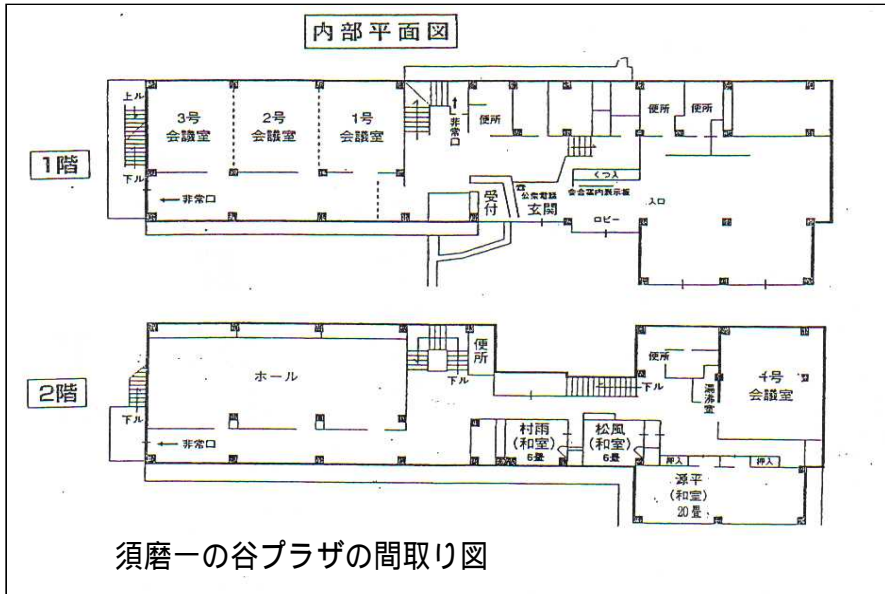
・冷暖房費は、別途加算となります。

一人でも多くの参加で総会を盛り上げよう

## 平成19年度 グループわ 定期総会

日時 ; 5月15日(火) 場所 ; シルバーカレッジホール

なお総会の議案書と出欠はがき等を同封しています。皆様のご出席をお待ちしています。



須磨一の谷プラザの間取り図

## いじめ電話相談始める 休日・平日夜間の受付業務 理事 - 加藤 勇治

いま世間を騒がせているこどものいじめ・不登校・非行問題を未然に防止しようと、神戸市教育委員会からの委託を受けて、3月1日から休日と平日夜間の「いじめ電話相談」をはじめました。

最近、いじめによる児童、生徒の自殺が多発していることから全国の教育委員会に従来の昼間の教育相談だけでなく、休日及び深夜にもこどもや父兄が、気軽に相談できる教育相談体制を早急に整備するよう文部科学省から指示があったものです。

神戸市教育委員会では、これまで市内の小中学校で担任等による教育相談を実施したり、スクールカウンセラーによる悩み事相談などを受けていました。また直接、教師や学校に相談しにくい場合を考えて、教育相談指導室(神戸市総合教育センター内)と青少年補導センターで、平日の午前9時から午後5時まで面接相談したり、夜間は留守番電話で対応していました。

今回、文科省からの指示で、休日、昼夜を問わず24時間いつでも気軽に相談できる窓口の設置することになったのです。すでに平成17年7月からこども家庭センター内で、休日及び平日夜間の「こども虐待電話相談」を行い、実績のあるグループわに新たな「いじめ電話相談」の窓口業務の委託がありました。

新設の「いじめ電話相談」は開設を急ぐ関係から「こども虐待相談」と同じこども家庭センター内に設置しました。グループわとしては電話連絡などで希望者を募り、スタッフ30数名は2月下旬に3日間の実務研修を受けて、3月1日から電話相談を始めます。相談業務には臨床心理士の方も待機して、専門的なカウンセラーを行なうことになっています。

一応、相談体制は整いましたが、夜間勤務の上、365日の1日も休む事が出来ないので、無理なく相談業務が維持できるようにいまま少しスタッフ体制を強化する必要があります。月1回くらいなら参加してもよいと思われる方、グループわの事務局までご連絡下さい。

(前頁から続く)須磨浦公園駅との中間で、双方から徒歩約10分の位置にあり、市バスでは71・72・75・81系統の一ノ谷終点で、風光明媚な自然環境に恵まれた施設です。休館日は毎週月曜日と年末年始です。是非お立ち寄りください。

当プラザには、基本的には館長と他1名の計2名のスタッフが常駐して

います。当プラザのボランティアスタッフとして登録されている方は、4月1日現在で40人を超えましたが、より多くの方々に交代制で参画していただくため、スタッフを募っています。スタッフを希望される方は、わ本部(743-8101)に詳細をお問い合わせください。

## パソコン講習の会が発足 在校生を対象に指導する 理事 - 高橋 孝男

皆さんご存知のシルバーカレッジのLL教室に、新しい30台のパソコンとサーバーが新設されました。それを利用してカレッジ在校生を対象とした本格的な講習をすることになりました。

学校当局からグループわが、その講習の委託を受けて、4月の新学期より受講生の募集を開始します。この講習の対応にはかなりの要員を必要とするため、本部だけでは対応しきれないため、新たに「パソコン講習の会」を立ち上げ、講師、アシスタント、運営担当者を募りましたところ、今年卒業された11期生の方を中心に、現在約30名ほど集まっています。

講習はパソコン入門からワードなどのアプリケーションの入門、応用など数コースを前期、後期の年2回に分けて行う企画をしてお

り、いま前期の講座と講師、アシスタントのマッチングを行っています。

各コースの定員を25名とし4月13日の入学式より受講者の募集を始めますが、このぎやらりーが皆様のお手元に届く頃には受付が終了しているかもしれません。講師、アシスタントはもう少し要すると思われるので、ご希望の方は、本部までお申し出ください。

また、カレッジの卒業生も利用できる従来からの一般市民高齢者向け講習は、本部よりこの会が引継ぎ、春、夏休み等に行います。これについては神戸市広報の募集掲載をご覧のうえ、ご希望の方は応募してください。



真新しいパソコンが入ったシルバーカレッジのLL教室

[子どもたちの学習支援活動]

神戸市教委・小学校々長会も高い評価

理事 - 中沢 保夫

平成19年度を迎え、学習支援活動はその広がりがはっきりと表われ、神戸市教育委員会・神戸市小学校々長会による評価も高まってまいりました。

これはひとえに本活動にお力添えをいただいていた支援者お一人お一人の優しさに満ち溢れたお気持ちの賜物です。

次の表は今までの要請校・支援校の推移を示します。

年 度	平成17年度	平成18年度	平成19年度 (4/17現在)
要 請 校	22	28	39
支 援 校 (内特別支援)	18 (5)	25 (12)	

4月17日(火)に本年度第1回の学習支援活動“登録者の集い”を開催して、平成19年度の活動方針を決め、登録者の方々の意向を確認しました。5月の連休明けには本格的な活動に入ります。

なお教務リーダーとして松本容子氏(前福住小学校長)が、去る4月2日、神戸市シルバーカレッジに着任されました。

以下平成18年度の活動報告の一部を抜粋してお届けします。



高木 良治(福10学)  
(伊川谷小学校で、  
特別支援活動)

ここ1年、週1回の割合で、なかよし学級(1~6年9人)の支援をさせて頂きました。多少の不安もありましたが「案ずるより生むが易し」の例えどおり、抵抗もなく受け入れて貰ったようです。最初は子どもたちの勉強のお手伝いする事だ考えていましたが、実際には休憩時間に子どもたちと努めて遊ぶ事に専念しました。

縄跳び、ドッジボール投げ、跳び箱やトランポリン、創作遊びなどです。少しは運動能力の向上になったのではないかと内心思っています。子どもたちとは出来るだけ自然体で係わるよう努めてきました。学習支援は子育てを経験した高齢者には適した分野です。何よりも次世代に対する支援という事で、楽しい夢があります。

榑原惇一 (生7-学)

(東須磨小学校で「総合的な学級」を支援)

一人だけであったが、積極的な疑問を出してくれた。6年生にもなればさすがに自分の考えをハッキリ出すことが出来るのだと感心した。全ての教科について言えることだと思うが、関心の度合いが大きく開いているようなので担任の先生の苦勞が想像され。



第1回学習支援“登録者の集い”で本年度の活動方針を話し合う

る。何がしかの力になればよいと考えている。

福家 博子 (一般)

(小部小学校で主に2年生を支援)

この学年の児童に係わって2年が過ぎた。泣き虫だったり、自己中心だったり、暴れん坊だった児童もすっかり成長して、もうすぐ3年生という自覚が芽生えているのが分かる。学習もすっかり難しくなってきたが、繰り返し指導される担任の先生の熱意により、目立って遅れている児童がいない。うれしい事である。

学期の終わりには紙芝居をさせてもらい、児童手作りの紙芝居作品入れを貰った。「また紙芝居作って持ってきてね」の声に、当方も発表の喜びを感じている。どこまで学習支援できたのか。

西田 圭一 (生9-環)

(千鳥が丘小学校でソロバンの指導)

1クラスにたった4時限の限られた時間ではあったが、ソロバンは面白いと言って、親にソロバンを購入して貰った児童もあり、教え甲斐があった。(多くの児童からたくさんの礼状を頂いた)平成19年度も引き続きやってほしいとの依頼を受けた。

川上 弘一 (福12-学)

(本山第3小学校で国語・算数支援)

2学期からはクラスの中で、給食を児童と一緒にいただき、また運動会に参加する等、先生や児童と親しくなる機会が増えております。また11月には2年生全員を対象に、生活についての授業を持たせてもらいました。(全員興味深く聞いてくれ、質問も活発でした)一方児童のしつけ等、科目以外の学校教育も大変大切であり、クラス

に係わって行く中で、どのように指導して行くべきか、悩み多き課題でもあります。

渡辺寛治

(国10-国)

(花谷小学校で、  
野菜を育てる  
方法を指導)

学期を終えた段階で、双方の感想や提案を具体的に

出し合う場を設けるべきと思う。

林 和男 (国8-国)

(福田小学校で2,5年生に算数支援)

毎週金曜日に家から50分ほどかけて行き帰りを歩いて出かけます。算数のこと、児童達の顔を思い出しながら学校へ。校長室で先生を交えてお茶を頂きながら、卒業を控えての行事などを聞いて教室に向かう。

いつも反省している教えすぎ、優しすぎのお助け爺さんにならないよう戒める。自分で解ける力がつくよう考えて、一緒に勉強している。

この間、5年生と可愛い2年生から千代紙で折った花束と、お礼の一人ひとりのカードをいただき、真に嬉しかった。学習支援活動に参加させていただき感謝しています。

10周年記念事業特集

“全員参加型”の記念イベント・パフォーマンス

理事 - 加藤 勇治

10周年記念事業のメインイベントとして、本年9月1日(土)に盛大な「記念イベント・パフォーマンス」を計画しています。10年のあゆみを辿りながら、一人でも多くの方に今の現状をご理解いただくとともに、相互交流を深め今後の更なる飛躍を期す“全員参加型の催し”を合い言葉として検討してまいりました。実行委員会で衆知を集め企画した「記念イベント・パフォーマンス」を紹介します。

**実施時期** 平成19年9月1日(土) 9:30~15:00

**会場** 神戸市シルバーカレッジ

カレッジホール(第1部、第2部の開催会場)  
教室等の施設 (第3部卒業生等の交流会場)  
ふれあいホール(各種展示パフォーマンス会場)

**第1部 記念式典**

**式典前アトラクション(9:30~)**  
○箏曲演奏と男声コーラスで厳かに式典ムード作り。(箏友会、KS男声合唱団出演)

**記念式典(10:00~10:40)**  
**来賓、わ 歴代代表(委員長・理事長)紹介**

○司会者から来賓の方々(下記)わ 歴代代表(5名)を紹介。歴代代表の紹介にはそれぞれの代表在任時の主たる業績や取組み等を織り込んで紹介。

○来賓として神戸市長、KSC学長、こうべ市民福祉振興協会会長、社会福祉協議会代表、神戸市教育委員会代表、環境局局长、保健福祉局局长、神戸市区長会代表の8名の方を予定しています。

**実行委員長挨拶**

○わ を代表して記念事業実施に際しての所信や決意を表明します。

**来賓代表祝辞**

**ボランティア活動体験発表**

○環境未来館委託事業の中で実施している各種一般市民向けイベント(環境教育)の実践者から、体験発表していただく。

**標語入選者表彰**

○記念事業実施を機に会員から広く募集したキャッチフレーズ(これからのボランティア活動の指針となる標語)入選者3名を表彰し、最優秀作(1点)優秀作(2点)を紹介。

**記念演奏(テノール)**

○関西の有望若手テノール歌手を招き、魅力的なテノール独唱で式典の雰囲気をつめる。(テノール歌手として現在売り出し中の松本薫平氏に内定)

**シルバーカレッジ校歌斉唱**

○式典の最後をH.15年に制定されたシルバーカレッジ校歌で締めくくる。(7期生以前の卒業生には初めて披露。)

**第2部 パフォーマンス**

(10:50~12:30)

**わ 所属の全ボランティアグループ(約70グループ)紹介パレード**

○司会者の紹介に従い、順次各グループがプラカードを掲げステージに登場する。

○わの全ボランティアグループが一堂に集まり、それぞれが思い思いに活動をPRするまさに全員参加型のパフォーマンスです。登場するボランティアグループの内訳は福祉部会6G、国際部会5G、環境部会14G、文化部会27G、いきがい部会3G、地区会9G、本部5G合計69Gです。

**コーロKSC、ハワイアンなど5組の出演。**

○5組の出演はボランティアグループ10Gのパレードが終わる毎に出演し、単調に流れるボランティアグループのパレードにアクセントをつけます。

**昼食(12:00~13:30)**

○事前予約制の弁当(お茶付)を準備し、ふれあいホールや食堂、第三部の相互交流会会場の教室などで適宜昼食。  
(弁当引換券配布。わの会員は無料、非会員は有料)

**第3部 KSC卒業生(在校生、一般含)相互交流会**

(13:30~15:00)  
○カレッジ内全教室をコース別に開放し、コース毎に1期生から11期生まで自由に集まってお楽しみ、相互の交流・懇談会を実施します。  
○1期生から11期生までのフリーな交流の機会は開学以来初めての試みで注目されます。卒業生全クラスの同期会世話役の皆さんと連携し、会員・非会員を問わず一人でも多くの方の参加を呼びかけてまいります。

**10周年記念事業標語募集について(お願い)**

記念事業実施に際し、わの活動指針となる標語を広く会員から募集し、最優秀作品を今後のわの活動スローガンとしたいと考えております。

下記要領に従い、奮って応募いただきますようお願いいたします。

記

1. 募集期間

平成19年5月31日(木)まで

2. 応募方法

○所定応募用紙に標語をご記入のうえ、募集期間末日までに実行委員会宛FAXか郵送ください。

送付先は、〒651-4102 北区しあわせの村 シルバーカレッジ内 グループ わ 10周年記念事業実行委員会宛

3. 表彰

○入選作(最優秀作品1点、優秀作品2点)は記念式典にて表彰。



## いけ花・お茶・書道・折り紙の美しさに驚き

世界20カ国の外国人家族延べ86名が観賞

国9 - 国竹内 義治 福10 - 芳賀 順子

神戸国際会議場で3月27, 28, 30日の3日間、第19回国際海藻シンポジウムが開かれました。神戸国際観光コンベンション協会からの要請で、グループわの文化、国際両部会の皆さんが、この会議に同伴された家族の人たちに日本の伝統文化を披露して、おもてなしをしました。昨年末に開かれた国際会議で、いけ花などを体験して頂いたところ好評をいただいたので再度、グループわに依頼があったものです。

1日目の27日は、いけ花でアメリカ、メキシコ、イスラエルからのご婦人が参加しました。ビデオでいけ花の伝統をPRしたあと、用意したサクラ、ヤナギ、切花などを選んで思い思いに花を活けました。作品は会議場に展示され注目を集めていました。

2日目の28日は茶道で、にわか造りの立礼式の平点前で茶をたてました。この日も多くの外国人家族がつめかけ、入場制限するほど。3日目の30日は折り紙と書道で、会場は予想外の参加者で賑わいました。文化部の先生たちの着物姿は好評で、国際部の通訳の方も先生たちの思いをしっかりと伝えていただき喜んで頂きました。

この3日間に参加された外国人は20カ国、延べ86名に上りました。

### いけばなを展示、花添える

国11 - 文 福井 恵子

いけばな紹介も2回目となり、前回の反省も生かすことが出来、準備の段階からお手伝い下さったスタッフも「楽しかったわ」と喜んでいただいております。お引き受けしてよかったと思っています。

インターネットクラブで勉強してきたパワーポイントによる紹介で「百聞は一見にしかず」も実感しました。すべて通訳の方にお世話になったところは、ありがたく厚く感謝申し上げます。皆さんの作品はコンベンション協会の計らいで、会期中はロビーに飾って花を添えることになりました。型にはまったものでなく、無心に花と向き合って、自己表現された素敵ないけばなでした。



さくらの花を活けるインド人の男性

### 茶碗の持ち方から手解き

福7 - 文 島岡 一

最初に「お茶の歴史と茶道の作法等」について、岸一恵(福7)が説明・解説すると同時に芳賀順子(国10)が流暢な英語通訳を行い、松本美智子(食4)の立礼による平点前を披露しました。皆さん生まれて初めての経験でもあり、茶碗の持ち方・お茶の飲み方を部員が熱心に指導し一服いただいたあと、希望者によるお点前の実技指導を行いました。

参加された方々は楽しかった来日の「よき思い出」ができたと話されていたことが印象的でした。意外であったのは外国の方々、和菓子(餡入り)が苦手なようでほとんど食べ残された。聞いたところチョコレート系ならとのこと、今後の課題でもある。

### 国際観あふれる書の講座

食8 - 岩根 知子

今回初めて書道が加わり、読摩師範ほか3名が参加した。何度かの打合せで「書」について、どれくらいの理解と興味があるか、どのように説明してどういう字を書いてもらうか戸惑いましたが、国際部会の方々の流暢な通訳で、和気藹々のうちに時間が過ぎ、参加者に満足頂けたようで安堵した。

季節に合わせて桜・春・花の手本を用意して書いてもらったところ、実に上手で、また芸術的で、楽しそうに何枚も書き続けたり、筆順がうまくいかなかったりと、教えるのに大変でした。ボードに作品を貼って満足気に写真を撮ったり、充実した国際観あふれる講座となりました。

### 見事な折り紙にアゲイン

福1 - 木原 愛子

スパニッシュ、イングリッシュなど色々な言葉と文化を持っておられる

方々とのふれあいとして、日本の伝承文化である折り紙を仲立ちに、僅か2時間でしたが、子どもさんや男子の方も含めて20名の外国人と充実した時を過ごしました。

兜、金魚、お雛様、風車、騙し舟、鶴、風

船と用意したプログラムを完全に折り上げて満足げでした。お土産に渡した折り紙、千代紙を見て「アゲイン」と言われた事が私たちへの最大の労いの言葉と受け取りました。それぞれのお国へ帰られて、何度も折り返し試してくれたら幸いです。一人づつ握手しお別れしました。

### 来神の外国人に良い印象

福10 - 文 芳賀 順子

3日間の日本伝統文化講座の通訳を務めさせて頂き、昨年にも増して充実した体験であった。印象に残った人は、インド人のDr. Sivakumarさん。華道講座に大変感動されてゴッシュという絹の肩掛けをプレゼントしてくれた。これは特別にお世話になった人、大統領などにお礼として渡す物だという。もう一組フロリダから来たMrs. Leeと息子のSebastian(11才)は、4講座の全てに参加され、存分に日本伝統文化にしたった。「素晴らしい体験でした。親切にして頂き有難う」と帰っていかれました。

そして「このようなプロジェクトをするのはどういう人達ですか」と質問を受けたので、神戸シルバーカレッジのOBで組織したボランティアグループわの仲間であることを述べた。

3日間着物を着て務めさせてもらったが「一緒に写真を撮らせて下さい」という人がいた。中には着物を着てみたいという人もいて、着物着付け教室か、着物姿で記念写真を撮らせてあげても喜ばれることでしょう。

文化、国際両部会が協力をして仕上げたこの様な活動は、神戸に来られた外国の方々に良い印象を持って貰う為にも有意義な事だと思いました。

# 自慢の餃子づくりに子たちも一生懸命 大盛況の親子で集まれ中国家庭料理塾

食7- 広宮村 誠一



講師の李さんから餃子作りの説明に、食い入るように眺める子どもたち

2月18日(日)10時より神戸市シルバーカレッジの調理室に於いて、グループわ主催のイベント『親子であつまれ、中国家庭料理塾』が催された。参加希望者が予想外に多く断るほどの盛況ぶり、この日は16家族50人が参加された。

2家族ずつ8テーブルに分かれ、講師には李愛蘭さん(食6期)はじめ食文化コースの卒業生有志が担当した。当日のメニューは水餃子、豚そぼろ炒めのレタス包み、レタススープ、杏仁豆腐と中国の家庭料理がテーマで餃子は皮から作る本格的なもの。



“ぼくも出来るよ”とお母さんと一緒に餃子の皮つくりする親子たち

最初は全員教壇を囲み、李さんの実演を見学し、その後各テーブルに分かれて作業にかかった。強力粉をこね、めん棒を使って薄い皮を作り、別に準備した具を包む。子供たちは粘土細工気取りでほっぺを粉で白くしながら、

一生懸命こねていた。玉ねぎやキャベツを刻む作業では危なっかしい手つきの子もいたが、なかなか上手な子供さんも多かった。親子でいろいろ話しながら料理を作る光景は大変微笑ましく感じた。

12時半ごろ、各テーブルとも料理が完成し、一斉に“いただきます”の感謝の言葉で、みんなおいしそうに自分たちで作った餃子をほうばった。食後、各テーブルの代表に感想を伺ったところ、あるお父さんは「餃子はよく作るが皮から作るのは初めてだった。少し難しかったけどまた、家でやって

みようと思う。」また、あるお子様は「他の家族と一緒に作業で初めのうちはちょっと戸惑ったが、直ぐに慣れてよいお友達が出来て楽しかった。料理も大変美味しかった。」教室の中ほどで力を込めて粉を練っていた若いお父さん、日頃使わぬ筋肉を酷使したせいか肩を上下しながら「疲れた!」の一言。

明日からのお仕事大丈夫かなあーちょっと心配です。

## にぎやかに村の縁日

理事 - 藪口 卓也

しあわせの村のいきいき元気まつり“わいわいストリート”が3月18日に開かれました。時おり小雪がちらつく生憎のお天気で、行楽客の足も鈍く、先行きに不安を感じました。

しあわせの村中央緑道に沿って10張りのテントの中に、折り染め、木のおもちゃ作り、紙とんぼ、けん玉、駒まわし、跳ねかえる、竹馬など昔懐かしい遊びの店が開店しました。

グループわの会員が紙ひこうきや竹とんぼを飛ばすなど、雰囲気作りに努めた甲斐もあり、徐々に親子連れが集まってきました。“一寸奉仕”の皆さんの大道芸、玉簾れには幾重もの人垣が出来るほど、にぎやかな縁日となりました。

子どもたちが竹ゲタや折り染めを手に嬉しそうな笑顔、終わり良ければ全て良し、たくさんの親子連れに“昔あそび”を楽しんで頂いた一日でした。そして約50名のわ会員皆様もカイロを懐に來た寒さを吹き飛ばす楽しい一日でした。



糸鋸を使っておもちゃ作りの親子たち

### たくさんのご署名有難う

社会還元センターグループわ

郷 理事長様、小林 副理事長様

GIST治療薬「スーテント」の早期承認のご署名を多数頂き有難うございました。署名用紙は2月28日に「GIST患者の会」に発送しました。ご署名人数は7,567人と当初予想を大きく上回りました。患者の会のメンバーが厚生労働省に「スーテントの早期承認」を求めた陳情を行なったとのこと。

多くの方々のご理解とご協力を賜り本当に有難うございました。取りあえず現状報告まで。

金子 路子(福祉10期)

# 国際部会

「共に生きる世界をつくろう神戸から」に参加して  
 KOBE 国際交流フェア 2007年  
 国8 - 国 竹内 義治

本年も(財)神戸国際協力交流センター、神戸国際交流フェア実行委員会の共催による KOBE 国際交流フェアが3月17日(土)は神戸国際交流協会会議室で、3月18日(日)は神戸ハーバランドのデュオドームとスペースシアターで開催されました。本フェアは震災復興2周年を記念して始められ、本年で11回目を迎えました。今年のテーマは『共に生きる世界をつくろう！神戸から』ですが、年々参加団体も増え、国際色を強め過去最高の79団体による多彩なフェアでした。

との印象を強く感じるフェアでした。わが国際部会も今回初めて「リレートーク」に参加し『再び学んで他のために、多文化共生を目指して』をテーマにグループわの紹介、国際部会の活動状況を国際部会全体活動と常設小グループによる各種支援活動を紹介しました。リレートーク後の交流パーティーには国際部会より7名が参加し、各種団体の方々との交流を図ると共に、活動の様子を学ぶことが出来ました。

デュオドームでは昨年に引続き「LOVE KOBE LOVE PEOPLE」のポスターに加え、リレートークで紹介した車椅子テニス大会日本伝統文化講座、ハイキング・スポーツ交流会、外国人留学生料理教室、合唱団交流会等の活動状況と常設小グループの英語点



国際交流フェアで披露された民族舞踊と民族衣装ファッション

17日の神戸国際交流協会会議室で開かれた「リレートーク」には16団体が参加。各団体とも「語りあおう共に生きる世界を」をテーマに熱っぽく語りかけ、1団体8分の短時間での発表であったが、皆さんの熱意が強く伝わりました。また、16団体中5団体がシルバーカレッジの卒業生からの発表でありました。皆さん色々な団体で活躍されている様子に驚きを感じると同時に、シルバーカレッジここにありとの感を持った次第です。

18日のデュオドームでは各団体ブースでの活動状況の紹介展示、世界の民族衣装のファッションショー。スペースシアターでは世界の料理と民芸品の販売に加え、ステージでは各国民族舞踊、演奏、コーラス、日本伝統芸術など国際色豊かなパフォーマンスが繰り広げられ、「共に生きる世界」

活動状況と常設小グループの英語点字 PHD 支援、土曜学校における学習支援、英語劇、ミャンマー支援等の写真展示、ブースに来られた人にはシルバーカレッジとグループわの概要冊子(和文、英文)を配布しました。

今回は市からの助成も無く、参加団体のボランティアによる手作りとなったが、活気のあるフェアになり、フェアを通じて、他の参加伝統芸術など国際色豊かなパフォーマンスが繰り広げられ、「共に生きる世界」との印象を強く感じるフェアでした。

より学ぶべき事が多いことを知りました。今後ともこのような催しを通じて友好の輪を広げると共に、連携協力して活動を進め、国際部会員の若さを保ち(活性化)ながら、多文化共生を目指した社会作りに役立ちたいとの意を強くした次第です。

## 外国人の子供とコマ回し マリスト国際学校で昔あそび

国6 国 黒田 宏

マリスト(ブラザー)国際学校で「昔遊び」を始めて早3年が経つ。本当は4年目であるが、最初の年は先方の止むを得ない都合で急遽取り止めとなった。この学校では毎年2月に「Japan Culture Week」として生徒が日本の伝統的な文化を鑑賞したり体験する機会を与えられており、その一つに我々が子供の頃に楽しんだ「昔遊び」を加えて貰うことになった。

当初は国際部会のメンバーが通訳をする形で始めたが、我々もワイワイ・ガヤガヤと一緒に楽しんでいる状況である。一口に遊びと言っても子どもたちにとって1時間足らずでいるんな遊びを体験してできるようになるのは難しい。

なかでも彼らにとってコマ回しは簡単ではない。制限時間の半分以上を費やし何回も失敗を繰返してやっとコマが回ったときのうれしそうな顔は忘れられない。遊びの種類は、コマ・ブンブンゴマ・紙飛行機・竹馬・竹トンボ・ケン玉・折紙等々。簡単そうでなかなか出来ないのがブンブンゴマで、引張ったり緩めたりするコツが掴めず苦労していた。「I give you.」と言うと大事そうに仕舞い込んだ。

－昨年カナディアン・アカデミーでは、家に持ち帰って練習して出来るようになったと言う報告をしてくれた生徒がいた。竹馬が面白い。我々は足を乗せる部分を前後にして足の裏全体を乗せていたが、先生たち(外国人)は、それを左右(横)に開き土踏まずあたりを台に直角に乗せて歩いていた。

何時もの事ながら、何か役に立てばとボランティア活動に参加するが終わってみると逆にこちらが元気を貰って帰ってくるのがしばしばで、私にとっては大きな元気の源となっている。



# 環境部会

## 親子で集まれ炭焼き塾

生 9 - 環 長谷川 博

暖かい日差しに恵まれた3月4日、カレッジ中庭と美工室で炭焼き体験塾を開催しました。

前日より炭焼きされた竹炭を心配顔のスタッフの手で炉が開かれると、参加した親子 27 人の注目する中、つやのある黒く焼けた「竹」が現れホットする。歓声を上げる子どもたち、炭焼き体験塾がスタートしました。

子どもたちの手で炭を取り出し、その後金網の中に、新しい竹を充填する。小さな手に木鋸で隙間に竹を挿入していく、珍しい作業なので木鋸の取り合いになった。竹で膨らんだ金網を炭焼き炉に入れ、点火して作業は終了です。



炉からつやのある竹炭を取り出す子ども達

カレッジ美工室では「今日の竹は阪神淡路大震災慰霊祭に各地から送られてきた竹を使います」「植物のケナフ草は二酸化炭素を沢山吸収し、皮は紙・布になり、茎は炭になります」「地球温暖化を防ぐのに、紙を大切にしよう」等の説明。子どもたちは既に学校で地球温暖化の勉強をしており、二酸化炭素等の単語も理解してくれた。炭の説明で備長炭、竹炭、ケナフ炭の特色などは、子どもたちより親のほうが熱心に耳を傾けていた。

ケナフ炭で絵を書こうコーナーではケナフ炭を使い、姉妹で父親の顔を書いたり、中庭で見つけた虫や、家の庭の花など思い思いのものを書いて、意外に盛り上がった。各自楽しく炭で手を黒くしながら 夢中になっていた。振り返りの感想文では竹のこと、炭のこと、ケナフのことが書かれ、充分楽しく役立ったことと感じた。

## 子どもエコクラブのつどい 企業のエコ施設を訪ねる

生 3 - 環 中島 洋吉

2月24日(土)こうべ環境未来館の環境学習講座(エコスクール)「企業のエコ施設を訪ねよう」を(株)神戸製鋼所の共催で、灘浜サイエンススクエアで実施しました。今回は広く子どもエコクラブ活動について知ってもらおうと同時に、灘浜サイエンススクエアの施設で遊びながら、科学実験に参加して科学の不思議を発見してもらおう企画で、児童館の子どもたち80名の参加がありました。

市環境局から子どもエコクラブの概要についての説明を聞いた後、篠原児童館、細田児童館と、ご家族で活動をされている3グループから日頃行っているエコ活動の事例発表があり、子どもたちの環境への取り組みについて聞きました。

この後、灘浜サイエンススクエアの施設や展示物、今日の催しのポイント

の説明を聞き、森林インストラクターの方からピオトープの話や、六甲山の話、山に木がないと土砂崩れや洪水が起きるなどの話を聞きました。ピオトープ池の観察では、池の周りの外来植物や生きもの探しを行い、外来植物の多さや、カエルの卵やオタマジャクシを見つけたりと貴重な体験をしました。

施設見学・体験の後は、灘浜サイエンススクエアの講師から『くっつく、離れる - 静電気』のテーマで実験してもらい、子どもたちも参加して、日ごろいやな感じを持っている静電気が集塵機として環境に役立っていることや、静電気が発生する仕組みについて勉強しました。

今回も昨年度と同様、こべっコランドから若い男女 10 名のボランティアが参加してくれ、子どもたちの体験学習をサポートしてくれ、子どもたちは大満足の様子でした。

## 季節の草花

# ブタナ と コメツブツメクサ

生 8 - 文 久保 知彦

5月に入ると、カレッジのあたりには色とりどりの花が咲き乱れる。しかも、黄色の花が多く見られる。その中でも、一面に咲いているタンポポによく似た花が何か判らなかった。花茎が細長くて硬く、枝分かれしている。最初は栽培種かと思っていたが、後日になって「ブタナ」という名前が判った。なぜこんな名前がついたのか不思議なのだが、これはヨーロッパ原産の帰化植物で 1930 年代に日本にやって来て、神戸でブタナと命名されたらしい。

一方、草丈が低く地面を這うように拡がり、小さい黄色の花をつけ、シロツメクサのように3枚の小葉をつけた草が目についた。これは「コメツブツメクサ」という植物であることが判った。これも帰化植物で大正初期に侵入していたようだ。

いつもは何となく見過ごしがちな草花も名前を知ると親近感がわいてくる。すると、いたるところでこれらの植物が目につくようになる。それにしても、身の回りにいかに帰化植物が多いことだろう。在来種はやがて姿を消すのではないだろうか。



ブタナ



コメツブツメクサ



# 垂水区会

高齢者と楽しい歌声の集い  
コーラス・タルミの活動

国7 - 文相馬 博

## 1. ボランティア活動

コーラス・タルミは2ヶ所でボランティア活動を行っています。1つは「リーベス・トラウム」(本多間2丁目飯村医院付属のグループホーム)で、平成17年3月より入居高齢者を対象に、初めは毎月1回でしたが、18年2月より3ヶ月に1回、第2水曜日に、15時より30分間コーラスを歌っています。

もう1つは「垂水在宅福祉センター」(垂水年金会館2階)で、18年12月よりデイサービスの高齢者を対象

に、毎月1回、13時30分より50分間、コーラスを歌っています。曜日は先方スケジュールにより変わります。

どちらの活動も、毎回約10名が交替で、ピアノの先生と共に出向きます。唱歌、童謡、民謡、歌曲、歌謡曲など、高齢者の誰もが聞いたり歌ったりしたことのある歌を、季節に合わせて選び一緒に歌っています。

## 2. 同好会活動

平成15年5月に、垂水会の歌の好きなメンバーが集まって、垂水会コーラス(現コーラス・タルミ)を作りました。毎月第1、第3土曜日午前中に、千代ヶ丘福祉センターで練習を行っています。現在メンバーは1期生より10期生までの25名(ソプラノ9名、アルト7名、テノール6名、バス3名)

で、指揮者及びピアノの先生の指導の下、練習に励んでいます。垂水会総会には毎年出演させていただいております。また、近く垂水音楽協会に入り、活動を広げる予定です。



入居高齢者を前に懐かしい歌を披露するコーラス・タルミの皆さん

# 灘区会

会員の親睦をモットーに  
花見会、歓迎会など積極的に

国8 - 灘 福田 望

私たち灘区会は『楽しくなければ“わ”じゃないよ』をキャッチフレーズにして、楽しい仲間がいろいろなボランティア活動をしています。灘区のボランティアセンターにも所属して、都賀川を守る会にも協同参画しています。

特別養護老人ホーム、ロングステージ灘では、折り紙の指導やお話し相手、歌唱グループによる三味線演奏、懐メロ交流会を開いています。同じ特養、海星病院での車椅子介助やりハビリ送迎などの活動をしています。

また野鳥の観察やエコスクールなどで、小学生とのふれあい学習も好評

を得て、地域社会に貢献しています。その為にもまず会員仲間が、仲良しグループをつくらないと“わ”が生まれないのです。そこで区内のウォーキング、会食パーティーなど企画して実施しています。

亥年も春本番を迎え花見会、新入会員歓迎パーティー、それにグループわの10周年記念行事の準備など精力的に取り組んで参りますので、皆さん方の応援をよろしく願います。

私の生まれ育った灘区は、灘五郷の酒蔵から生まれた灘の生一本で名を挙げました。灘とは?辞書で引くと海流が早く、波が荒くて航海に困難な海...とある。北九州の玄海灘はそれに近いが、神戸の灘は摩耶、六甲の美しい山並みから宮水となって、大阪湾に注ぐ優しい海です。この海で獲れるイカナゴやお酒が美味しいのも当たり前です。

# 西区会

竹の北公園の管理始める

生9 - 西 西田 圭一

西神中央の竹の台地区には規模の大きい竹の台公園のほか、各丁目ごとに6ヶ所の公園があり、このうち神戸市から公園の清掃や緑化等の管理委託を受けている所は3ヶ所あります。自治会、老人会が公園管理会を結成して活動していますが、高齢化のため中止している所が多いのが現状です。

このたび「竹の北公園管理会」を結成したきっかけは、竹の台小学校の子どもの見守りをしているグループが日々、竹の北公園の前の信号のある横断歩道で活動していて、公園で子どもたちが遊んでいる割に木の枝が伸び、雑草も生え、犬の糞の放置などで荒れているのが話題になった。



清掃管理をスタートした「竹の北公園」

本年1月21日(日)竹の台エコタウンクラブの呼びかけで、竹の北公園のクリーン作戦が行なわれました。参加者74名(うち子どもが半数以上)で、ゴミ袋35個分も集まり、1回だけの清掃では公園全体をきれいにすることが出来ないで、エコタウンクラブの代表者の依頼を受けて、竹の台在住の西区会のメンバー8人が中心になり発足させました。

3月5日(月)からスタートすることになっていたが、生憎の雨で12日(月)に延期し、メンバー8名を中心に、公園をよく利用する子育てサポート「NPOぴっぴ」の保育士4名と、子どもたち17名が参加しスタートしました。2回目の3月19日(月)には11名の参加があり、今後第1月曜日と第3月曜日に活動し、子どもたちが安心して遊べる公園つくりと、地域住民との交流を深めてゆきたいと思えます。

# 東灘区会

『東灘区会歌』の発表会をめざす  
コーラス部が1周年を迎えました  
音5 - 東 藤井 潤子



今日も練習に励む東灘区会コーラス部

メンバーは歌の友愛訪問で老人ホームに行っている15名ほどです。いつもホームの人達と一緒に歌っているのですが、きっかけは「私達だけで思っきり歌いたいねえ」という声でした。昨年3月に立ち上がりました。練習には12、3名の出席で、高音と低音の2部でア・カペラで歌っています。

指導は 横山仁郎(8期・音文)さんです。温かな方ですが優しく厳しくお稽古して頂いております。曲は唱歌から抒情歌・日本の歌・世界の歌と幅広く、毎回楽しく歌っています。やがては発表会もしたいと思っているのですが、もっと美しく二声が響き合うようになればーと言うのが現在の状況です。

もう少しメンバーが増えれば嬉しいのですが。特に女性の方大歓迎です。気持ちよく声を出すってことは、健康にもいいですよ!

私たち、東灘区会は外部から講師を招かないで会員のなかから指導者を仰いでいます。他に「水彩画」・「料理講習」も教えてもらっています。

現在『東灘区会歌』が会員の廣川 幾雄さん(4期生環)の作詞で、作曲は小埜 直さん(音文6期)に依頼中です。近い将来「コーラス部」の発表会を開催する予定で、この席で『東灘区会歌』も紹介できる日を楽しみにしております。

# 北区会

花山小の梅林を育てる作業しませんか  
国9 - 文 徳原 尚世

北区神鉄花山駅の向かい、ふたご山のふもとにある花山小学校の裏山斜面には、近隣の住人しか知らない50本あまりの見事な梅林があります。一応小学校の委託地になっていますが、専任の管理者がいないまま荒れ放題の状態です。

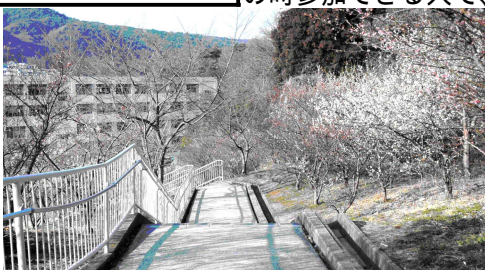
そこで小学校の要請もあり、北区住人の私たち手で、この梅林を守り育てるため、梅林有志会を発足させる運びとなりました。ひいては梅林をもっと増やし、かぶと虫たちの巣作りなどにも発展させて、地域の子育てへの貢献にもなればと願っています。

剪定、肥料、草刈など1年間のスケジュールなども全てこれから相談の上になりますが、無理しない程度に進めていきたいと思っています。年間7、8回程度、その時参加できる人で、知識の有無は問いません。

趣旨にご賛同いただき参加していただける方は、下記の電話かメールまでご一報ください。

徳原 (Tel 583-6761)

[toku700@nifty.com](mailto:toku700@nifty.com)



花山小学校の梅林

## グループ紹介 KSC一寸奉仕クラブ

福11 - 文 横井幸雄

皆さんで楽しく学び、またその芸によって他の人に喜んでもらえたら...という思いで設立した3年目の新しいクラブです。小さな幸せを大道芸に託して、一寸した奉仕をして喜んで頂くのがクラブ員の思いです。

「あ、さてっ、あ、さてっ、さて~は南京玉すだれ」の口上で始まる南京玉すだれ、皿まわし、細長い風船を膨らませて、かわいい動物や花などを作って楽しむ「動物風船」

などの大道芸に取り組んでいます。ボランティア暦30年の熱い思いを持った増金スミ子(福祉11期)を師匠として集まった素人20人余りでスタートしました。56本の玉と110個の糸の結び目でつながれた玉すだれに気持ちを託して自由に操る師匠の

もとで練習に励んで来ました。少し上手く出来るようになると、それが励みとなって更に向上を旨ざして取組んできました。

2005年8月に神戸駅前「デュオドーム」のイベントでデビュー、老人養護施設、児童館、施設、および各種イベントに参加しました。2006年10月には、兵庫国体、のじぎく兵庫大会の特設舞台での公演と着実に活動の幅

を広げてきました。

ここまで読まれると、大層なクラブのように思われますが、芸はまだまだ。素人ゆえ失敗はつきもの、失敗が笑いを誘



公演を終えた一寸奉仕クラブの皆さん

って、盛り上がることも度々でした。失敗も今となってはいい思い出です。3月でクラブを立ち上げた師匠と11期生は卒業しましたが、これ以後もクラブの存続のために、在校生と共に活動していきます。ご支援をお願いします。

## “パゴダの国ミャンマー”を福祉旅行

盲学校・孤児院・僧院無料小学校などを訪問

国9 - 国 北山 秀俊

研修旅行から福祉旅行へ

カレッジは開校以来ミャンマーが講義の対象に入っていなかった。2002年から3年間講義があり、THIN AYE AYE KO 女史(神戸大学・大学院卒文学博士)の講義を受けることができた。

2004年10月グループ学習、テーマ「もっと知りたい“パゴダの国ミャンマー”」で6名が研修旅行。

2006年2月に第2次研修旅行を、国際9期を中心に10期1名が加わり12名で、福祉活動を兼ねた研修旅行を行った。2007年2月19~28日の間、今回は竹内国際部長・北山・柴田部会員たち5名で福祉旅行を行った。

バゴーで孤児院と無料学校を訪問

バゴーはヤンゴン北東70kmの位置にあり13~16世紀にモン族の王都として栄えた。994年に建立された寝釈迦様で有名な古都です。タウンチャン孤児院には41名の孤児たちが入所している、政府からの支援は1人1日120k(チャット・1円=約10k)国内外から寄せられた寄付金の内から毎日15,000kを支出して運営され、1978年以降40組の養子縁組があったと、キンマー工校長先生が話された。

チェニガン寺院の無料小学校で小中生徒503人(内中学生113人)が学んでいるという。教材は政府と同じものを使用して、教材のほかに仏陀の教えを説いている。教材は学校関係者から寄贈、そして内外からの寄付金で運営され、政府からの援助はない。

この街にも小中学校はある。しかし貧困や親のいない子どもたちが、ここで学び卒業すれば、同等の卒業資格を得られると寺院学校長の僧侶が言われた。ミャンマーには義務教育制度はないが、識字率が90%を超えていると言う。これは各地の僧院が学校の役割を担っているからだと思う。

ヤンゴンとピンウーリンで盲学校訪問

今回も両盲学校を訪問し英語点字書と盲学校から希望のあった点字打器と点字用紙を寄贈した。ヤンゴン



人懐っこい孤児院の子どもたち

の盲学校では授業風景を参観した。日本のボランティアから日本式マッサージの指導を受け、市民の来客を得て収入を上げていると言われた。

この日はオーストラリアの眼科医師団が来校して全児童を対象にボランティア検診をしていた。校長から学校始まって初めての検診だと説明があった。ピンウーリン盲学校は校長と事務長が出張中だったので、女性の先生が対応された。これまでの寄贈した英語点字書が書棚に並べられていた。点字書をどのように利用しているかの問いに、毎週順番に利用しているとのことだった。



写真の生徒が今回寄贈した英語点字書を開き朗読を始めた。綺麗な発音だった。3ページほど読み、にっこりと笑顔を見せた。

盲学校内を見学させて頂いた、音楽室ではミャンマーの伝統音楽ではなく、エレキギターやドラムで音楽を奏でていた。別の教室では、卒業生盲人のための占い指導講座を開いていた。来年もまた来ますよと、約束をして別れた。

梅農園でミャンマー料理

ピンウーリンはイギリス植民地時代の避暑地、戦争中は日本軍が作戦本部を置いた、日本的に言えば軽井沢と言える地方だ。

NPO法人神戸ミャンマー皆好会は、農民支援を目的として150本の梅林を開いている。ここで現地の人たちと梅の木に施肥を行なった。そして梅林でミャンマー料理をご馳走になった。今年は100kg程の梅の収穫が予想されている。これらが梅干や梅酒に加工され販売されて、農民の生活が少しでも豊かになれればと思う。

日本語学校学生との交流

ヤンゴンではティン ミャンマールンゲージセンター、ここはKSCで3年間ミャンマー問題の講義を担当したティンエイエイコ女史が校長をしている日本語学校だ。マンダレーにはマンダレー外大日本語科がある、私たちはそれぞれの学生たちと食事会を持ち交流を行なった。近い将来日本とミャンマーの架け橋になって活動して頂きたいと思う。

日本人墓地と慰霊碑の参拝

大東亜戦争のビルマ戦線で18万の兵士が戦病餓死した。ヤンゴンの日本人墓地のほか、当時の激戦地各地に慰霊碑がある。旅行に際し日本人墓地と各地の慰霊碑に花を手向けにお参りをした。

ミャンマーの世界的遺産を観光

福祉旅行は観光地も精力的に回った。ヤンゴンの金色に輝くシュエダゴンパゴダ、国立博物館。仏教の聖地バガン、イラワジ河クルーズ、リゾートホテルでの連泊。マンダレーの王宮、マンダレーヒルからの夕日の眺め、野外レストランでのマリオネットショウ。バゴーの55mの寝釈迦様、精霊信仰のポツパ山など観光を満喫させて頂いた。今後も国際部会で福祉旅行を続けたいと思います。

小さな善意

孤児院、盲学校、僧立無料学校、農民の農民たち、TMLCとマンダレー外大日本語科に僅かながら寄付金を贈呈させて頂いた。小さな善意がそれぞれで役立って頂ければと願っています。

# 文化部会

## “はばたけ神戸!”と歌いました コーロKSC・小・中・高校生が「希望のステージ」 国6 - 文 芝野 公男



未来に向かってはばたけと「希望のステージ」で合唱するコーロKSCの皆さん

混声合唱団コーロKSC主催の「希望のステージ」と題する合唱演奏会が、2月2日(金)神戸文化ホールで開催されました。震災から12年、廃墟の中から立ち上がって復興に取り組んできた神戸が、新空港も開港し、もっと元気になって大きく未来へ向かってはばたいて行くようにとの願いをこめました。

更には震災とその復興の過程で学んだ、人と人との絆、地域の結びつき、そして日頃からの災害への備えの大切さなど、多くの教訓を風化させることなく、未来を担う子どもたちにも伝えたいとの想いもこめました。

この日は市内の小学校、中学校及び高等学校のコーラス部にも呼びかけて参加してもらい「神戸からの発信ネットワーク」からの助成金を頂いて、この演奏会を持ったのです。

第一ステージではコーロKSCが、2年前の「祈りのステージ」で初めて歌った、震災10年のレクイエム組曲「あれから10年」を歌いました。第

二ステージでは千鳥が丘小学校の子どもたちが、そして第三ステージでは親和中学校・親和女子高等学校及び神戸高等学校の少女たちが、それぞれに元気な歌や若者の想いをこめた歌を歌いました。

第四ステージでは再びコーロKSCが、永遠の生命の流れを水の流りに譬えた曲を歌いあげました。そして最後の第五ステージでは合同演奏で、のじぎく兵庫国体やのじぎく兵庫大会のテーマ曲などと、コーロKSCの指揮者 守屋幸子先生が新たに作詞作曲した「神戸エアポート」を全グループの参加者250人の大合唱で歌って、会場いっぱいのお客様たちの感動の大拍手を受けながら盛会裏に演奏会を閉じました。

コーロKSCではこれからも、合唱技能の向上に向けて、たゆまぬ研鑽に励むと共に、ボランティア活動やその他の社会活動への積極的な参加も続けていきたいと願っています。

### 編集後記

本紙のトップページに掲載した「須磨一の谷プラザ」をグループわが管理運営を引継げるにあたって、理事会でも色々論議になった。郷理事長が1,000人を越す会員を抱えて、一人でも多くの会員が活動できる場を確保したいと、関係方面に働きかけた結果、このたび須磨区役所から「是非グループわで引き受けてほしい」との要請があったものです。

旧勤労会館海の家は、施設の老朽化もあって利用者が激減し、年々大幅な赤字を出したため、18年5月に閉鎖したいきさつがあります。理事会ではこのことが問題となり「わの将来にとって大きなお荷物になる」「赤字が出たら市が面倒を見てくれるのか」など反対意見が出されました。郷理事長は社会貢献の実験場と位置付け、公募に必ず決断をしたのです。

結果は3団体によるプレゼンテーションで競い合わせ、グループわの管

## 親睦の輪が広がるプレー 第2回グラウンドゴルフ大会

グループわ主催の「第2回各区対抗ふれあいグラウンドゴルフ大会」が4月10日(火)しあわせの村球技場で開かれました。今回、初参加の垂水、中央区をはじめ8地区と本部から19チーム、100人の選手が参加、プレーを通じて親睦を深めました。

郷理事長の挨拶、ラジオ体操で身体をほぐしたあと、競技がスタートしました。午前中2ラウンド、午後1ラウンドの計3ラウンド、24ホールで争われました。今回も初心者が多く、地面をたたいたり、とんでもない方向にボールを飛ばすなど珍プレーが続出です。地面がデコボコですが「ヤッター、ホールインワンや」の歓声があちこちから聞こえます。3時間におよぶ競技の結果、成績は次の通りでした。

### 【団体の部】

- 優勝 垂水区会(681)
- 準優勝 北区会(701)
- 3位 西区会(729)

### 【個人の部】

- 優勝 野田和夫(北区、61)
- 準優勝 岸田重徳(長田区、62)
- 3位 菱田実(垂水区、62)
- 4位 西阪順三(本部、62)
- 5位 山口雅信(須磨区、63)
- B B 安元栄子(灘区、99)



団体優勝の表彰をうける垂水区会代表

理運営が決定したのです。市当局もわの要求を入れて、冷暖房設置などの改装工事を行ってくれました。

これからは如何に赤字を出さずに経営できるか、グループわの真価が問われるのです。現在スタッフは40人が登録していますが、まだ不足しています。郷理事長も今後、須磨一の谷プラザの運営に全力を注ぐ決意です。会員皆様のご理解と、機会があれば施設を利用して運営に協力していただくことです。(J・N)